

ホームフシケ ホームめい パーティー

今回は去年の7月から始まったホームめいのパーティーについてご紹介します。

プシケおおたのグループホームでは、月に1回入居者と職員が集まって話し合いをする入居者ミーティングというものがあります。ミーティングでは近況を言い合ったり、グループホームの使い方をみんなで話し合います。普段の生活では入居者と職員全員が集まる機会はなかなか無いため、この機会を利用していっそパーティーをして親睦を深めようじゃないかと考え、始まった次第です。



12月のメニューはチーズフォンデュでした。前日から材料の仕込みをして、当日は入居者の方々にも具材を串に刺すお手伝いをしていただきました。今回はホットプレートを使い、具材もチーズも温めながら食べていきます。とろとろのチーズにくるまったジャガイモやニンジン、フランスパンたち。味付けは塩でシンプルに仕上げました。皆様にも好評で、どんどんお皿に食べ終わった串が溜まっていきます。無事に完食し、クリスマスも近かったのでケーキも食べました。その後皆様に感想を伺うと、「満足です！」と笑顔で答えてくれました。やはりみんなで食べるご飯はいいですね。次回も開催が決定しているホームめいのパーティー、末永く続けていこうと思います。

クッキングワーク街の駅 ～防災訓練&横浜散策～

クッキングワーク街の駅では令和5年11月17日(金)に横浜防災センターと横浜中華街に行ってきました。横浜防災センターは横浜駅から歩いて15分ほどの場所にあり、地震・火災体験ツアーに参加しました。災害シアターで実際に起こりうる災害を映像で身近に体験することが出来たり、震災シミュレーターでは震度7の揺れを体感できたり災害の恐ろしさを改めて感じられました。

地震シミュレーターを体験した利用者さんからは「揺れが激しすぎて怖かった。もう乗りたくない。実際に震度7の地震が来たら怖い。」という感想を持たれた方が何人もいました。

他にも訓練用消火器を使った消火体験や煙からの避難行動を体験しました。

1時間ほどの内容でしたが、災害に対しての備えや心構えの大切さなど身をもって考えさせられました。

午前中の天気は土砂降りの雨でしたが、お昼を食べに横浜中華街に着いた頃には雨も上がり、昼食後は山下公園まで歩いて公園内を散策して何事もなく皆さん無事に帰ってくる事が出来ました。



～～ 地域生活安定化支援事業 ～～～～

退院支援では病院からの外出や外出中の食事や外泊などの制限も緩やかに
なり、コロナウイルス感染症以前の状況に近くなりました。それに伴い新規
の依頼も増えました。入院患者の方とお話をすると、退院に前向きな方だけ
でなく消極的な方もいらっしゃいます。消極的な方のエピソードとして、まず
温かい天ぷらそばを作って食べたいと話がありました。早速、当法人の蒲田にあるショートステイを
半日利用して調理をする計画をたて、入院患者の方と実行しました。面談時は口数が少ない方ですが、
調理になると実家での生活やご自身のことを話す一面も見ることができました。
調理の過程で失敗をしましたが、お互いに笑ったり和やかな雰囲気楽しかったです。結局は、かきた
まうどんに変更になりましたが、入院前の生活を思い出すきっかけ作りになったと思います。
これからも入院されているご本人の興味があることから退院につなげる支援をしていきたいです。



地域の多様な人たちの居場所 ～「CS にしかまた」

AM11 時開店。散歩中の高齢男性、トーストセット（ドリンクはホットコーヒー）を注文。新聞に
目を通してしばらく休憩。ここでは時間がゆっくり流れていく。12 時、当事者の男性が持参したラ
ンチを食べて帰る。PM1 時、乳児連れの若い母親が休憩のため立ち寄り、スタッフと談笑して帰
る。買い物かご付きの手押し車の高齢婦人、近くの接骨院予約の待ち時間を過ごすため立ち寄る。
PM2 時過ぎ、下校中の小学生が店の中をのぞいている。「ランドセルを家に置いてからまた来て
ね」と声をかける。近くに住むご婦人が使わなくなった衣類・雑貨を寄附してくださる。それらに
安く値付けしてある物品を喜んで買ってくださる方々がいる。思い出のある物を捨て去られるの
ではなく、また他の人が有効に使っていただけることを願う。PM2 時半頃、自治会・町会の高齢ご婦
人 4、5 名ほど、それぞれの集会の帰りに集まり店の左スペースで閉店まで会話に花が咲く。一
方、右側スペースでは当事者同士、当事者と一般客が雑談している。PM4 時半閉店。

CS にしかまたではこんな日常がゆっくりと過ぎていく。 (河合)

今年度の「みんなのつどいプロジェクト」では、毎月行っている「手遊びの会」に対して『にっ
こり大賞』をいただきました。 (川崎)



編集後記；コロナも第 5 類となり、何とか日常が戻りつつあるようになって来ました。各所でも、プログラムや
イベントが復活して、利用する人達に喜びを与えることが出来るようになって来ました。少しずつですが、皆様
が日々の生活を楽しく送れるように、スタッフ一同も楽しく頑張っていきたいと思えます。

しかし元旦から能登半島で大地震、2 日に羽田空港事故と 2 日続きで、激動の年を暗示するような事故が起こ
りました。被害に遭われた方のご冥福を祈り、心からお見舞いを申し上げます。 (田中隆博)

第16回「心の、あけぼの展」

あけぼの会では、毎年「心の、あけぼの展」を開催しております。
大田区在住で精神疾患をお持ちの方、大田区内の精神科病院・デイケア・福祉施設等をご利用の方の作品を展示します。

展示する作品は絵画・写真・書・手芸品・文芸作品「俳句・短歌・詩」・立体作品などです。
多くの方々にご来場していただければと思います。

開催日時：令和6年2月20日（火）～2月25日（日）15時まで

開催場所：大田文化の森 1階展示コーナー



賛助会だより

映画「精神0」上映会&トークイベントのご紹介

障害者理解啓発グループおおた～ツタエルチカラ～さんが実施する映画「精神0」上映会&トークイベントを、法人及び賛助会で協賛いたしました。皆様のご参加をお願いいたします。

- ♥日時 1月27日(土)12:00～16:15 11:20開場 ♥場所 大田区民ホール・アプリコ地下一階 展示室
- ♥対象 精神障害に関する福祉、医療、人権等に関心ある方等どなたでも ♥定員200名 空席あれば当日参加可
- ♥参加費 1000円（障害者、学生は500円）
- ♥内容 ◆第一部 映画「精神0」（上映時間約128分）

2009年、精神科医山本昌知氏とその仲間たちの精神科診療所「こらーる」での日々の活動と実践を撮影したドキュメンタリー映画「精神」が精神障害当事者にスポットライトを当てた「観察映画」として話題になりました。それから時を経た2020年ドキュメンタリー映画「精神0」が公開されました。カメラがとらえたのは、山本医師と認知症を患った奥様の芳子さんの穏やかな日々です。

◆第二部 トークイベント「精神医療とこれからの地域のありかた」

映画出演の山本昌知氏のほかに劇作家として表現活動を行っている精神科医の胡桃沢伸氏、執筆や音楽活動を行っている星野概念氏をお迎えして、精神科医のありかた、そして地域の今後の在り方についてともに考えます。

プシケおおた賛助会費を2023年8月1日から2023年12月31日迄に納入して頂いた方(敬称略)

個人会費； 36名

団体会費； 3団体



♥心より御礼申し上げます。寒さ厳しき折、ご健康とご多幸を祈念申し上げます♥

プシケおおた賛助会代表 佐々木康生

入会のご案内；

プシケおおた賛助会は、社会福祉法人プシケおおたの運営の維持・発展のために支援協力することを目的として活動を行っています。当会の趣旨にご賛同いただける方の入会をお待ちしております。会費は年間1口2000円からで、何口でも可能です。入会を希望される方は、下記口座に会費をお振込みください。

郵便振替 口座番号 00150-5-663423 加入者名 プシケおおた賛助会